



私のからだ、がんから守ろう!

子宮頸がん予防を考える

健康 やってみよう!
むなかた
21

第49回



子宮頸がんについて説明する近藤医師

子宮頸がんは、一生のうち一度は感染する身近なウイルスです。感染してもほとんどの場合、自然に排除されますが、排除されず感染が長引いた場合、子宮頸がんを発症することがあります。

子宮は、出産まで赤ちゃんを守り、育てるとても大切なところで、子宮の入り口部分にできるがんが「子宮頸がん」です。

◆20歳代〜30歳代の女性で急増する子宮頸がん



講師の近藤医師

第一部では「そうだったのか! 子宮頸がん予防ワクチンの実際」と題して、福岡大病院産婦人科医師の近藤晴彦さんが講演しました。

市では、1月から中学1年〜高校1年の年齢に該当する女子を対象に、子宮頸がん予防ワクチンの公費接種を開始。今回は、ワクチンや検診についてみんなで考えようと2月26日に中央公民館で開かれた講演会の内容を紹介します。

健康づくり課 ☎(36) 1187

◆子宮頸がんは発がん性HPVの感染が原因

日本では、1年間で約1万5000人の女性が子宮頸がんにかかり、約3500人が亡くなっています。中でも、20歳代〜30歳代の女性に急増している恐れ病気がです。

Q 市では、子宮頸がんワクチンの接種が無料になりましたが、も

◆大学生が考える子宮頸がん予防

第2部では「子宮頸がんについて思うこと」と題して、日本赤十字九州国際看護大学の「学生ピアサークル」が討論会を開催しました。

◆子宮頸がんにならないための2つのポイント

最初のポイントは、HPVの感染を防ぐこと。もう一つは、ウイルスに感染しても、検診を受けて早期発見、早期治療をすることです。

A1 いろいろな情報を知っていれば判断できますが、情報がな

し対象の年齢に戻れるとしたら、ワクチンを接種しますか?

A2 小・中学生や高校生にも理解できるように、情報を与えてほしいと思います

Q ワクチンについてもっと知りたいことや疑問に思うことはありますか?

A1 周りの友達が接種しているのか気になります

A2 お医者さんが男性か女性かが気になります。女医さんがいる病院を知りたいです

Q 市から検診の無料クーポンが配布されましたが、検診を受けましたか?

A1 何も知らない状態でクーポンが届いたので、信用できなくて捨ててしまいました

A2 最近、検診を受けました。母が行った病院で検診を受けましたが、初めて緊張した。何を聞いたらいいのかわからないまま終わってしまいました。待合室でも周りの目が気になりましたが、最後に先生から「今後何かあったら来るように」と声を掛けてもら

い、頼れる病院だったので良かったです

今回の討論会で、看護学生として子宮頸がんについて、まだまだ勉強が足りないと感じました。自分の体を自分で守ることはとても大切ということとを再確認できました。

現在、子宮頸がんワクチンの不足によって、予防接種できない状況が続いています。これから予防接種を受ける人は、夏頃(見込み)まで接種を待つ必要があります。

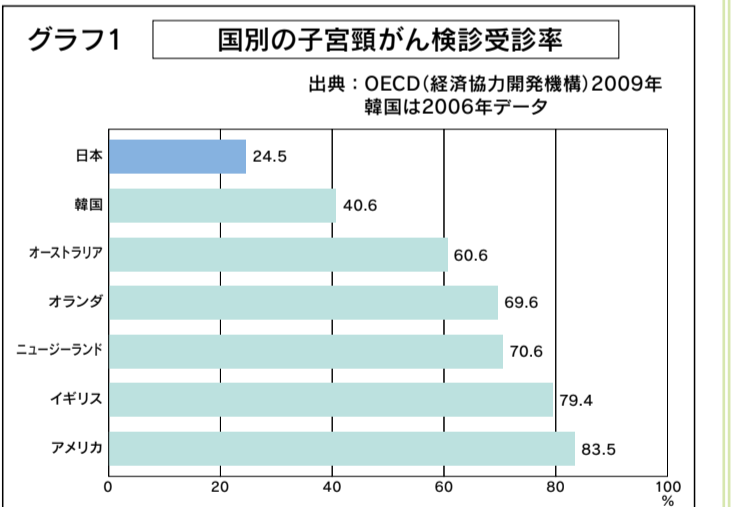
◆子宮頸がんワクチンが不足しています

保健師からの一言

子宮頸がん 検診受診率が低い日本

大谷保健師

グラフ1のように、日本人の子宮頸がん検診受診率は、諸外国に比べて大きく後れを取っています。



子宮頸がん検診は、対象者である20歳と21歳以上の奇数年齢の女性は500円で受診できます(22歳以上の偶数年齢の人は、地域健診2,900円、センター健診3,700円)。現在、子宮頸がんの予防法は、ワクチン接種と検診しかありません。HPV16型や18型に感染すると、子宮頸部の細胞に異常を引き起こし、長い年月を経て、がんへ進行する場合があります。HPV感染を予防し、たとえ感染しても早期に発見することが大切です。
*年齢は、検診を受診する年度の3月31日時点の年齢

市では、収集した個人情報を、収集の目的以外で利用することはありません。広報紙は、古紙が配合された紙を使用しています。

◆舞台裏

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は国内観測史上最大のマグニチュード9.0。この地震で多大な被害と犠牲者が出た被災されたみなさんには心からお見舞い申し上げます。市でも、3月20日に予定していた「むなかたウォーキング」を中止にしました。被災地の一日も早い復興をお祈りします。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震など復興支援活動に取り組んだ宗像地区消防本部の隊員のみなさんでも、想像を絶する光景。現地での活動や被災地の様子などを聞くとき、言葉が重なり、記事として言葉に表す難しさを痛感しました。市でも被災地支援の取り組みを実施。今自分にできること。常に考えて行動していきたい。(あ)

◆阪神・淡路大震災や福岡県西方沖地震などで復興支援活動に取り組んだ宗像地区消防本部の隊員のみなさんでも、想像を絶する光景。現地での活動や被災地の様子などを聞くとき、言葉が重なり、記事として言葉に表す難しさを痛感しました。市でも被災地支援の取り組みを実施。今自分にできること。常に考えて行動していきたい。(あ)

発行：宗像市 住所：〒811-3492 福岡県宗像市東郷1-1-1
編集：情報政策課広報編集係 TEL：0940-36-1055 FAX：0940-34-2002
メールアドレス：koho@city.munakata.fukuoka.jp
印刷：(株)西日本新聞印刷